マイクロプラスチック問題って？

1　マイクロプラスチックと生態系への影響

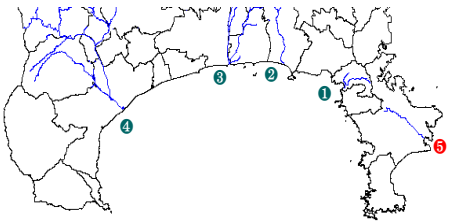
マイクロプラスチックとは、**５㎜未満の微小なプラスチック**のことを言います。

私たちの身のまわりには使い捨て容器や日用雑貨をはじめ、たくさんのプラスチックが使われています。これらが様々な原因により、**海洋中へごみとして放出され、紫外線や波浪などの影響により自然環境中で破砕・細分化されることでマイクロプラスチックとなります。**マイクロプラスチックは、極めて小さいサイズであることから、海の生き物が餌などと一緒に飲み込んでしまいます。また、マイクロプラスチックは、海洋中などにごく低濃度で含まれる有害な化学物質をその表面に吸着しやすい性質を持っているため、**吸着した化学物質やプラスチック自体に含有している化学物質により、食物連鎖を通じて生態系に影響を及ぼすことが懸念されています。**

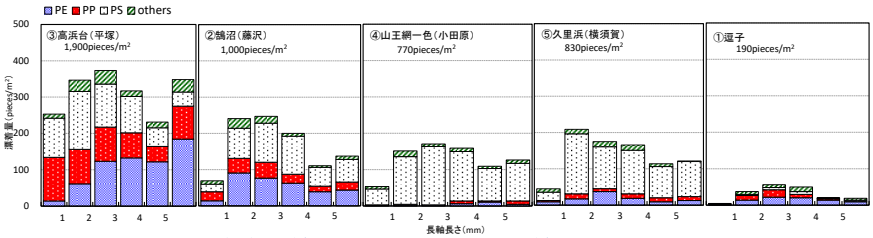
2　相模湾沿岸における漂着状況

県では、相模湾沿岸における漂着状況など、マイクロプラスチックの現状を把握するために、**平成29年度から神奈川県環境科学センターにおいて調査を行っています。**

調査は、相模湾の海岸４ヶ所、比較のため東京湾の海岸１ヶ所を選定し、マイクロプラスチックの漂着量等を調べました。その結果、海岸によって漂着しているマイクロプラスチックの種類（材質）に違いがあることが分かりました。さらに、**相模湾では、外洋から運ばれてくるマイクロプラスチックより、内陸から河川を通じて湾内に流れ出すマイクロプラスチックの影響を強く受けている可能性が高いことが明らかになりました。**

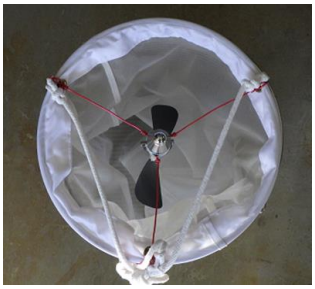


調査地点図



非定常漂着を除外した春期の漂着状況（2017-18の２年平均）

PE：ポリエチレン、PP：ポリプロピレン、PS：発泡ポリスチレン　　図中数値は総漂着数

3　河川を流下するマイクロプラスチックの調査

以上の結果を受けて、実際の河川でどのぐらいマイクロプラスチックが流れているか、またその排出元は何かを少しでも明らかにするため、現在河川を流れているマイクロプラスチックの調査を実施しています。写真にあるような、プランクトンネット（目合い300μm、口径30cm）を改良した採取器具を使って河川水を採取し、河川ごとの違いや特徴的なマイクロプラスチックの確認などを行っています。**これまでのところ、河川ごとの特徴が確認されており、私たちの身近なところからマイクロプラスチックが発生していることもわかりました。**